



「リベラル読解論述研究」は、書籍を読んで討論を行い小論文を作成するY-SAPIX独自の科目です。主体的に考える習慣を身につけるための講座です。



Y-SAPIXの理科では、授業内の対話を通じて「科学的な考え方が自然に身に付きます。この理解する過程が入試問題への解答力へとつながるのです。



Y-SAPIXの地理歴史では、さまざまな事象の原因を考える対話型の授業を通じ、刻一刻と変化する未来に向けた思考力を育みます。

やるべきことの多い医学部入試

Y-SAPIXだからできること

人の命を預かり、専門知識や技術、コミュニケーション能力など多様な能力が求められる医師。その医師を育てる医学部教育が今、変革期を迎えている。医学部の入試事情に詳しいY-SAPIX 東大館の奥村直生館長に、現在進行中の医学部の教育改革や、それにもなう入試の変化、医学部を志す人へのアドバイスを聞いた。



Y-SAPIX東大館 奥村 直生館長

グローバルスタンダードへ進化する日本の医学部教育

日本の医学部教育は現在、改革の真っただ中にある。教育の在り方や求める学生像が大きく変化し、医学部志望者が入試までにしておくべき準備も様変わりしているのだ。奥村館長はその経緯をこう語る。

「事の起りは2010年、米国の公的機関が『米国内における医師国家試験の受験資格は、2023年以降、国際的な認証評価を受けている医学部出身者に限る』という通告を出したことです。これまでは日本の医師免許があれば米国内でも医療活動ができましたが、それが不可能になりました。そのため、日本の大学の医学部も国際基準に準拠する必要があるのです。」

これを受け、東京大学、東京医科歯科大学、千葉大学、新潟大学、東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学の6大学が連携し、新たな認証評価制度を構築するための研究がスタート。現在、日本医学教育評価機構（JACME）が国内の医学部について認証評価を与えるかどうかの審査

を進めている最中だ。こうした動きは医学部の教育にどんな変化をもたらすのだろうか。

「まず、臨床実習が大きく変わります。医学部のカリキュラムには、実際の診療現場で患者に接する臨床実習が必須ですが、これが世界標準では72週以上求められるのに対し、多くの日本の大学では50週程度しか実施されていないのです。国際認証を受けるためには実習時間を大幅に増やさなければなりません。さらに、臨床実習のスタイルも『見学型』から『参加型』へ、学生がより主体的に患者に関わるよう、質的な変革も求められています。」

実習内容が変われば、それに先立つ基礎医学の講義内容も変化するのは必然だ。膨大な知識を暗記する詰め込み型から、医療現場で役立つ実践的なスキルがより重視されるようになると考えられているのだ。

医学部入試で重視される「コミュニケーション能力」

では、医学部を志望する受験生にはどんな能力が求められるのか。

「最も大切なのは『コミュニケーション能力』です。臨床実習で実際に患者と触れ合い、適切に診療に参加できるかどうか。それを見極めるために面接がより重要視されるでしょう。東京大学の理科3類でも2018年度入試から面接試験が11年ぶりに復活しますが、これもこうした流れに沿ったものです。」

では医師を目指す動機や覚悟が明確に語れるかどうかが必要になる。また、数ある医学部のなかで、その大学を志望した動機を、各大学のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）を理解したうえで、自分の言葉で語れるようにしておくかなければならない。

小論文を課す大学も多く、その対策も必要だ。医学部の場合「安楽死は是非か」「ヒトクロロンの問題点は」といった生命倫理や死生観を問う難しいテーマが出されることが多いので、関連領域の知識を得ておくのはもちろん、それらに対して自分の意見を明確にし、さらにはそれを他者に正確に伝える能力が求められるのだ。

「こうした能力を身につけるためには、机上の勉強だけでは足りません。家族で医療関連ニュースを題材にして意見を語り合ったり、生命倫理をテーマにした本を読んで友人と意見交換したりといったことを日常的に行っておく必要があると思います。」と奥村館長は話す。

学力だけに偏らず 多面的・総合的な能力を磨く

以上のような状況を踏まえ、具体的に医学部を志望する場合、どんな準備が必要かを見ていこう。まず学力面だが、数学や理科といった理系科目で確実な高得点が必要になるのはもちろんのこと、国語や英語も医学部入試を突破するためには極めて重要だと奥村館長は指摘する。

「最初はリベラル読解論述研究を週1時間だけでもいいので、とにかく早く始めてほしいと思います。『中学生生活に慣れてから塾をどうするか考えたい』という意見もよく聞きますが、学校生活が安定してしまうと、新しい習慣を加えるのが難しくなり、結果、大学入試への準備が遅れてしまいがちです。中学生生活のスタートと同時に、少ない時間でも塾を生活リズムの中に組み込むことが大事なのです。」

改革の流れを見ても分かるように、受験勉強はもはや入試のためだけにするものではない。大学入学後も、医師になった後も確実に役立つものへと変化しているのだ。それにいかに早く気づき、モチベーションを高めるか。医学部への現役合格のために、それが何よりも重要ではないだろうか。

「コミュニケーション能力がますます重視されるなか、国語はすべての教科の基礎として非常に重要です。また、論文の読み書きや学会発表、海外研修などの機会が多い医師は、英語の4技能を高いレベルで身につけておかなければなりません。入試でも『医学部英語』と呼ばれる医療分野に関連した長文の出題が多く、高い語彙力と読解力が求められます。」

加えて、2020年度からの大学入試制度改革の影響も考慮しなければなりません。新たな大学入学共通テストが現行のセンター試験と同程度の難易度であると仮定すれば、医学部合格のためには90%以上の得点が必要だ。さらに新制度では「多面的かつ総合的な評価が導入されるため、学校の成績はもちろん、部活動や委員会活動、ボランティア活動なども評価の対象になる。」

つまり、これから医学部を目指す人たちは、各教科について非常に高い学力、コミュニケーション能力、面接小論文に対応できる論理構成力やプレゼン力を磨くことに加えて、部活動や委員会活動などの課外活動まで積極的にこなす必要がある。やるべきことが非常に多いのだ。

大学入試のための準備は 早めのスタートがポイント

こうした準備を着々と進めるためのパートナーがY-SAPIXだ。「塾といえは知識を詰め込む場所だと思っている人が多いようですが、Y-SAPIXでは何よりも『考え

ること』を重視しています。知識の丸暗記ではなく、その知識を活用できる演習を多用し、講師の一方的な説明に終始することなく、少人数の対話型授業で周囲と活発に意見を交わす。こうした工夫で、新時代の入試で求められる学力の3要素「知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性」を確実に高めていくのです。」

そんな特色が端的に表れているのが「リベラル読解論述研究」だろう。これは、課題図書を読み、討論し、小論文を作成するというY-SAPIXの独自科目で、この連の流れのなかでさまざまな意見を受け入れる柔軟な思考力と、的確かつ説得力のある記述表現力を磨く。

「同種の授業は他塾ではまず見かけませんが、面接や小論文を含む医学部入試を突破するため、また将来医師として活躍するためにも、こうしたトレーニングは重要です。死生観や人間観など、医療に直結するテーマも数多く扱っているのので、医学部を志すなら、ぜひ中学生から継続して受けてほしいと思います。」

実践力を高める指導も大きな特長だ。例えば英語の場合、従来の指導法では、単語の暗記、英文解釈、英作文……と、基礎から応用へと順番に進めていくのが一般的だが、Y-SAPIXでは語彙やイディオムの修得と同時に、それを活用して話し、書き、聞くといった演習を加え、4技能を並行して磨く学習環境が整えられているのだ。



Y-SAPIXの特長が最もよく表れた東大館のリベラルスクエア。質問や相談ができるスペースが設けられており、インストラクターが常駐しています。



Y-SAPIXには東京大学・京都大学をはじめとする難関大学や、医学部に通うインストラクターが常駐しています。教科ごとの質問に答えてくれたり、自らの体験に基づいた勉強法のアドバイスをしてくれたりします。



①大学情報ファイルは、医学部生活のために必要な情報がぎっしり。
②生徒と講師の距離が近く、授業中でも様々な確認や質問ができます。
③チーム会議で生徒の情報を共有。教職員が一丸となって生徒と共に合格を目指します。



「先ほど二貫して応援する」といわれましたが、医学部合格後の支援も行われているのですか。
はい、まず富士学院には予備校にはめずらしいOB会があり、メンバーはすでに480名を超えています。そのメンバーに対してOB会事務局を通して様々な応援を行っています。まず合格した生徒達全員に進学する大学先の様々な情報が掲載されている「大学情報ファイル」をプレゼントしています。この情報ファイルには大学の基本カリキュラム・進級・留年・放校などの情報、周辺の街情報やOBからの知得情報など入学する生徒にとって、あれば助かるありがたい情報がたくさん載っています。

「夜間学習」の特色も教えてください。
授業終了後、夜10時まで「夜間学習」の場を設けています。こちらも律の学習スタイルではなく、生徒一人ひとりの状況に応じて、ベストな勉強方法を提案しています。

高卒生対象の富士ゼミは1クラス8名以下の少人数制で、科目別に学力別で編成された「クラス授業」と、「個別指導」の2つの形態があります。もちろん、すべて個別指導にすれば、それなりの効果はありますが、富士学院でもその方法も可能ですが、できるだけ経済的な負担を軽減するために、クラス授業と組み合わせることを推奨しています。クラス授業には周りの生徒の質問や意見が新たな気づきを生むなどのメリットがあります。生徒一人ひとりの学力の現状を踏まえて、チームの教職員と生徒、保護者がよく話し合っ、たとえば得意科目はクラス授業、苦手科目・分野については個別指導といった具合に、生徒にとってベストなカリキュラムを出来るだけ編成するようにしています。

「授業の形態はどのようになっていますか。」
報がたくさん載っています。また定期的にOB懇親会を開き、勉強会や情報交換などを行っています。今回全国のアパマンショップと提携して、OB会メンバーが部屋を借りるときに、仲介手数料が半額になるサービスも行うようになりました。

クラス授業と個別指導を最適な形で組み合わせる

法が選択できるようになっています。たとえば、週テストなどで理解不足が判明した生徒に対しては、集団での補習授業を実施します。ある程度学力が備わった生徒については、個々に最適な課題プリントを与えて、自分の力で解かせ、添削指導します。さらに、一部の生徒には、自習して分からないところを待機している講師に質問する形も認めています。ただし、どの方法を選択するかは生徒任せにはしていません。現状の学力や性格などを踏まえて、チームとしてベストの選択をアドバイスします。その際は生徒とよく話し合います。生徒が納得して、主体的にその方法で頑張ろうという意識がなければ、何も身につかないからです。

「どのような教材を使用していますか。」
富士学院のオリジナル教材がベースになります。けれども、生徒個々に科目ごと、分野ごとに、理解度は異なるので、一律に同じような指導をして、学力を向上させることは困難です。そこで、講師それぞれが工夫して、たとえばその分野が得意な生徒には発展的な問題、理解が不足している生徒には基礎から見直すような問題など、個別にプリントを用意して指導しています。

全校舎に男女別の寮と専用食堂を設置

「生活面で生徒を支援されていることはありますか。」
生活のリズムが崩れると、勉強にも



富士学院評判ドットコムでは、富士学院を卒業した医大生やドクターが富士学院のことや受験時の思い出、またがんばっている現状などを語っています。

「富士学院の教育を受けた生徒たちからは、どのような声が聞かれますか。」
OB医大生、OBドクターに、富士学院で学んだ頃を語ってもらう「富士学院評判ドットコム」というウェブサイトを設けていますので、そちらをぜひ見てほしいと思います。合格した生徒の合格体験記や医大生の声、また現在ドクターとして活躍しているOBからのメッセージもたくさん載っていますので、受験生や保護者の方にとっても参考になると思います。

設定して、そういった意識がきちんと理解できる教職員を厳選して採用しています。
富士学院の大きな特色は、生徒一人ひとりに、講師担任、各科目の講師陣、職員がチームを編成して応援する体制をとっていることです。当然のことながら、入試は総合点の勝負ですから、一部の科目の成績だけ伸ばしても合格できません。科目間の指導バランスが重要になります。しかし、多くの予備校の先生方は自分の担当科目の学力を向上させることだけに専念します。それに対して、富士学院ではチーム会議を定期的に行い、この生徒を合格ラインに到達させるためには、今どんな勉強が必要なのか、真実に議論を重ねています。場合によっては、自分の担当科目の課題を減らして、定期間、特定の科目の勉強に集中させることもあります。当初は「生徒にとって理想的な指導スタイルではあるが、講師に他科目まで目配りさせるのは無理」と講師から疑問視されることもありました。しかし、「生徒のためには必要なんです」と一人ひとりの講師に理解してもらいました。現在では、チーム会議のときだけでなく、科目間の垣根を越えて、教職員同士が日常的に生徒の状況について話し合う光景が見られるようになっています。生徒たちにとっても、教職員みんなが同じ思いで自分のことを応援してくれていると実感できることで、安心感が生まれ、頑張ろうというモチベーションも高まってきます。

教職員が一丸となって 生徒を全力で 応援する意識が 高い合格実績に直結



富士学院 学院長 坂本 友寛氏

“一貫して最後まで生徒を応援していく”富士学院の基本ポリシー

全国に6校舎の直営校を擁し、医学部受験指導に定評のある富士学院が2016年4月、満を持して開設したのが東京校。初年度から早くも高い合格実績を示し、注目を集めている。どのような教育システムが強みを発揮しているのか。坂本友寛学院長に聞いた。

チーム指導体制のもと全員で 生徒を伸ばす意識を共有

「どのような教育方針やシステムが高い実績に結びついたのでしょか。」
生徒たちはこれからの社会、医療界を担う大切な「宝物」です。単に合格させたいというのではなく、良き医師に育てることが、我々の役割であり使命だと考えています。ですから、生徒のためにできることを、教職員が一丸となって、全力で応援するという意識が浸透しています。そのため、採用基準のハードルを高く

支障が出てきます。富士学院では全校舎に男女別の専用寮と、専用食堂を設けています。専用食堂は土日も含めて3食、栄養士がバランスのとれたあたたかい食事を提供しており、通学生も利用することができます。食事の時間は生徒たちにとって、仲間とコミュニケーションを図る、いい気分転換の場になっているようです。予備校独特の暗い雰囲気や、緊張感もなく、「富士学院の生徒はとてもしっかりしている」とよくいわれます。

医学部合格は『予備校選び』が鍵を握る！

医学部合格に実績ある 有力予備校が集結



少子化の影響もあり、大学を選ばなければほぼ全員が入学できる「全入時代」に突入したといわれるなか、医学部は依然として高い競争率をキープしています。多くの学部が志願者を減らす中で、なぜ最難関の医学部に人気が集まっているのでしょうか。

その背景には、iPS細胞の発見で、京都大学の山中伸弥教授がノーベル医学・生理学賞を受賞するなど、近年、医学分野の最先端研究に明るいニュースが多かったことが影響し、人の命をすくい、社会に貢献できる医師をめざす若者が増えていることがあります。また10年後、20年後の日本経済や社会の先行きが不透明な中で、高度な専門性を備えた医師という職業に魅力を感じるということも考えられます。

こうしたさまざまな要因があるだけに、医学部人気が上昇という傾向はしばらく続くと思われる。その結果、すべての医学部の偏差値が急上昇しています。

「医学部受験予備校合同相談会」では実績と経験豊富な医学部専門予備校7校を一堂に集め、個別相談を受け付けます。同時開催の説明会では、各予備校の指導方針・特色あるカリキュラム・学習環境についてもお聞きいただけます。来年の入試戦線はすでに始まっており、二日も早く予備校を選び受験対策をスタートさせる必要があります。ぜひこの機会に比較検討され、あなたに合った予備校を探してください。

表 4_ 広告

医学部受験 予備校合同相談会

2/18日 秋葉原UDX 東京都千代田区外神田4-14-1
 同時開催 参加予備校による説明会
 事前申込制 説明会は事前申込制、相談会は入退場自由となります。
 ※説明会は申込者多数の場合は抽選となります。



詳細・予約お申込みは **日経アドネット** 検索 <http://adnet.nikkei.co.jp/> お申し込み締め切り **2月8日(木)**

※締め切り後、入場券メールをお送りします。予備校別説明会はお申し込み多数の場合、抽選となります。当選の発表は入場券メールへの記載をもって代えさせていただきます。

主催 **日本経済新聞社クロスメディア営業局**

お問い合わせ 合同相談会 事務局 TEL.03-5330-8022 (受付時間 平日10:00~18:00)

日経マガジン 医学部受験特集号 ★読者プレゼント

本特集に関するアンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で図書カード2,000円分を10名様にプレゼントします。
 ◎応募締切…2018年2月26日(月)
 ※お申し込みは一人につき1回でお願いします。※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

★ご応募はこちらのサイトよりお申し込みください。
<http://adnet.nikkei.co.jp/>
 または、日経アドネット 検索

